みんなで造ったみんなの防災器具庫

先進的な防災活動の内容

柏野学区自主防災会では，震災時に地域住民がすぐに活用できる場所を選定し，防災器材を収納した防災器具庫の整備を進めています。

学区では，小学校にある自主防災会の防災器材庫とは別に，平成17年10月に，震災時に住民がすぐに使えるようにとシャベル・ハンマー・ノコなど13種類の防災グッズが収納された防災器材ボックスを消防分団器具庫に7箱設置しました。

平成19年4月に学区内7箇所に分散した消防団員宅に同ボックスを設置していましたが，実際，いざ地震が起こったら，地域の人がすぐに使えるのか…？ということで，柏野学区安心・安全協議会や地元消防分団などと協議しました。その結果，平成21年4月に地域の住民が誰でも使える，知っているという下柏野児童公園に立派な防災器具庫が設置されました。平成22年4月には，上柏野児童公園にもう一つ設置されることから，地元の人たちも「これで地震があっても用意周到や」と評判です。

特記事項

- 柏野学区は，昔から西陣織の織り屋さんが軒を連ね，隣近所の人達も和気あいあいな人たちが住んでいる地域柄です。
- 今回，整備された防災器具庫の費用は，平成17年の夏から実施されている夏祭りに，地元の各種団体などがたこ焼きなどの模擬店を出店し，その売上金からねん出された差益を4年間積み立てたものです。このような手法は柏野に30年ぶりに復活しました。
- 平成22年4月には，北の公園にできる防災器具庫と併せ，南北2箇所の児童公園に立派な防災器具庫ができるということで，柏野学区自主防災会はじめ地元住民の人たちも「みんなで造ったみんなの防災器具庫や！」と大評判です。

若い力と防災器具庫の増設で災害に強い地域に!

先進的な防災活動の内容

京極自主防災会では，大規模災害発生時の災害対応力向上のため，少年補導の若い力を地域防災に役立てるべく，京極学区での文化祭など，平素からの地域行事を少年補導班と連携して実施しています。

なかでも，京極自主防災会総合防災訓練では，少年補導学生班（大学生）が，参加住民に対し，防災資器材取扱指導を自主的に実施するなど，地域をリードする若い力として実際に活躍してもらい，大規模災害発生時には地域の大きな原動力となることが大いに期待できます。

京極自主防災会は，今出川通を挟んで南北に長い地域特性があり，京極小学校以外にも防災器具庫が必要との意見がありました。それを受け，平成20年度には自主防災会長の工場で防災器具庫を3基製作し，そのうちの1基を鶴山公園に設置し，運用しています。

今後も，地域住民から寄付等を募り，資器材を増強していくことを検討しているところであり，地域特性に応じた災害対応能力の向上に取り組んでいきます。

特記事項

- 地域社会に貢献しようとする活力ある少年補導と，若い力を必要とする自主防災会が，良好な協力体制を築くことで，地域の災害対応能力は確実に向上します。
- 器具庫は，会長の工場で製作されたため，経費を抑えることができました。これも地域力の有効利用と考えます。

素手では人は救えない！

先進的な防災活動の内容

桂坂学区自主防災会は，阪神・淡路大震災で約500こん包の支援物資を神戸に送った実績を持つ，防災活動が活発な自主防災会です。

このような経験を糧に自主防災会長の「素手では人は救えない。」を合言葉に，15の全自主防災部に鉄線きょう，ジャッキ，のこぎり等の「救出7つ道具」と名付けられた防災器材や負傷者及び防災器材の搬送用にリヤカーを自主的に配備しています。

また，当学区では，年に1度の桂坂学区総合防災訓練に加え，15の自主防災部が毎年，各々の地域に密着した訓練を実施しています。

平成21年度は，各自主防災部が自主的に配備した救助資器材を使用し，模擬倒壊家屋からの救出訓練を実施しました。

その様子は，1月17日の防災とボランティアの日にテレビ放送され，自主防災会，地域住民そして消防団が一体となった訓練により地域の防災意識の普及啓発につながりました。

特記事項

- 各自治会館に備え付けられた「救出7つ道具」は，阪神・淡路大震災を契機に自主防災会長の号令の下に配備が始まりましたが，各自主防災部がジャッキ及び鉄線きょうを毎年，必要に応じて購入し，拡充してきたものです。
- リヤカーは，坂の多い街を安全かつ迅速に負傷者や物資を搬送するために配備しました。更に，自主防災会の本部役員等には，ヘルメットやユニフォームの支給もしています。
- 防災への取組は，住民への普及啓発だけでなく，長期的な視点で救出資器材等の整備をすることが災害対応能力の向上につながります。